

5. グローバル COE プログラムにおける活動

＜一橋大学グローバル COE プログラム「社会科学の高度統計・実証分析拠点構築」活動報告＞

本プログラムは、経済研究所の深尾京司教授を拠点リーダーとして、2008 年度からスタートし、2012 年度が最終年度となる。本プログラムの目標は、世界の研究者コミュニティに開かれたデータ・アーカイブを核とし、オン・ザ・ジョブ・トレーニングによる人材育成と、アーカイブを活用した実証研究やデータに直結した統計分析手法・経済理論の開発を行い、世界的な教育研究拠点を構築することにある。

本プログラムは事業推進担当者 28 名(2012 年 12 月現在)のメンバーから構成されており、経済学研究科からは、14 名の教員(石川, 石村, 岡田(章), 岡田(羊祐), 岡室, 奥田, 川口, 黒住, 佐藤(宏), 佐藤(主光), 塩路, 蓼沼, 古沢, 山本)が参加している。他のメンバーは経済研究所所属の 14 名である。一橋大学の統計分析拠点という意味で、Hi-Stat という略称を用いている。

本プログラムは 2003-2007 年度に本研究科と経済研究所が共同で実施した 2 つの 21 世紀 COE プログラム「現代経済システムの規範的評価と社会的選択」と「社会科学の統計分析拠点構築(Hi-Stat)」を継承したものである。21 世紀 COE プログラム「社会科学の統計分析拠点構築」では全国の研究者による政府統計マイクロ・データの利用を支援する日本最初の拠点である「マイクロ・データ分析セクション」を総務省と連携して設立し、アジア諸国の過去 100 年にわたる統計を「アジア長期経済統計」として整備・一部公開し、日本の生産性を詳細な産業レベルで分析し、また国際比較を可能にする「日本産業生産性(JIP)データベース」を経済産業研究所と協力して作成・公開するなど、統計インフラの整備に努めた。本プログラムが継承したもう一つの 21 世紀 COE プログラム「現代経済システムの規範的評価と社会的選択」では、マクロ経済、金融、産業組織、国際経済、労働経済、公共経済、経済発展などの各分野で、日本の第一線で活躍する実証・理論経済学者達が共同研究を進めた。本プログラムにはこれらの研究者が多数参加することにより、収集・公開するデータベースや実証分析の対象分野を大幅に拡張し、実証の理論的基礎を充実させてきた。同時に統計理論家が結集し、データ・アーカイブと直結した分析手法の開発と教育を行い、マクロ経済時系列データに関する新しい分析方法の開発、マイクロ経済データを対象としたパネル・モデルに関する新しい分析方法の開発等を進めてきた。

拠点全体の事業として特筆すべき活動としては、以下がある。第一に、全国の研究者を対象とした政府統計マイクロデータの利用支援と独自集計を、総務省統計局との共同事業として行った。第二に、新たなデータベースを構築し公開した。第三に、実証研究の基礎となる新理論の構築を目指すべく、大規模な国際会議を多数開催した。第四に、マイクロ統計データを用いた実証分析を他大学の研究者・研究組織と連携して積極的に進めた。第五に、拠点形成目的の一つである「データと直結した統計分析手法の開発」のため、統計理論の充実を図った。

本拠点の充実したデータを利用する為、イェール大学、スタンフォード大学、プリンストン大学、ロンドン大学等の研究者や大学院生が本拠点に滞在し、研究を進めてきた。本プログラムでは、国際的に開かれた教育研究拠点として、国内外から公募で他大学の大学院生や若手研究者を「COE 研究生」として数ヶ月間受け入れ、経済的な支援や施設提供を行ってきた。また公募でポストドクレベルの国内外研究者を「COE 研究員」として雇用してきた。更に、政府マイクロ統計利用支援や公募研究を拡充し、経済研究所をはじめとする一橋大学のファシリテーターも活用することにより、海外や国内他機関の大学院生や研究者が多数、常時研究に参加する拠点となることを目指してきた。またフローニンゲン大学やロンドン大学と協力し、経済発展や生産性に関する全世界のデータをウェブ上で公開する国際ネットワークを構築してきた。

人材育成の面では、マイクロ分析研究グループ、地域・市場分析研究グループ、統計理論グループの有機的連携の下に事業を推進し、班横断の全体集会や院生・若手研究者対象のリサーチワークショップ・若手セミナー・レクチャーシリーズを多数開催することにより、院生の質を高め、博士論文の準備を促した。国際コンファレン

スでは、先端的な研究発表を行うとともに、院生が第一線の研究者と研究交流をもつ場を形成した。オン・ザ・ジョブ・トレーニングによる教育の成果が大学院生や若手研究者の論文出版や、大学並びに研究機関への就職といった形で徐々に結実しつつある。さらに一定の条件のもとで英文校正のサービスを提供したり、ポスター発表用プリンタの使用を許可したりするなど、大学院生の発表活動がスムーズに行えるような大学院生の視点に立ったサポートを充実させてきた。とくに、博士課程学生を厳選して「COE フェロー」および RA・TA として採用し、経済的支援を与えてきた。2012年12月現在で特任准教授2名、COE 研究員9名、JSPS 特別研究員1名、COE フェロー10名、COE 研究生2名、RA1名、TA1名を雇用している。また、COE 特別研究員、COE 客員研究員、及び公募研究者は、それぞれ47名、33名、27名となっている。

なお本プログラムの活動状況について、より詳しくは、以下の URL を参照されたい。

<http://gcoe.ier.hit-u.ac.jp/index.html>